



探訪 長門のいしおみ ④5

県立水産高等学校

白花塔

「白花塔」と名付けられたこの碑は、県立水産高校玄関前の「燈心台」の傍らにある。いまは台座が失われているが、当初はグラウンドの端の台石の上に建立されていた。碑の背面には、実習中に亡くなった生徒を顕彰する碑文が、つぎのように刻まれている。（振り仮名・句読点は、筆者）

碑文

太平洋八丈島東方九十料付附近に於て、大洋漁業所屬鮪漁船第一東丸（一三九屯）は、突風による時化に遭い瞬時にして転覆遭難す。時正に昭和三十六年二月二十六日午後五時!!卒業を目前にして同船に甲板員として乗船していた佐川洋君は、同日七時頃池田船長以下九名と共に、太平洋の激浪とた、かいつ、惜しくも水産の鬼と化し、鎮海の



神となって尊くも散華した。痛恨極まりなく哀惜措くところをしらず。嗚呼!故佐川洋君は

山陽町埴生の出身、生来寡黙実行の士で学業抜群、特に優秀なラグビーでもあった。君の崇高な遺志を永く継承し、後進の志気を益々鼓舞するため、茲に白花塔を建立し君の冥福を祈る。

昭和三十六年六月一日 学校長 北村

また、この塔の建立に関しては、同校発行の『山水創立四十五周年記念誌』につきのように記されている。

佐川君は大洋漁業(株)への就職が決まり、実習中にこの難に遭った。「純白の花」のように散った同君の水産魂と勤勉をたたえとともに、後進の志気を鼓舞しようこの塔が建てられた。

遺族を招いて行われた除幕式で、北村尚校長は、つぎの歌を手向けた。

いつまでも君が心を残さむと
白花もてこの土に盛る。

(正)

(寄稿・長門市郷土文化研究会)



こちら 119

その時あなたは…何ができますか?

救急車がくるまでに…



とっさの手当てが
命を救う!

不慮の事故、病気で呼吸あるいは心臓が停止してから、脳が生きていられる時間は4分といわれています。

救急車が来るまで、手をこまねいて見ていたら助かる命も助かりません。いざという時に応急手当ができるよう応急手当講座(普通救命講習)を受講しましょう。

職場、地域、グループ単位でお気軽に消防署までお申し込み下さい。

長門地区中央消防署 22-0119
火災時の問い合わせ 22-1414